

広報たかさごでは、高砂市民病院の現状と、 今後について知っていただくための 記事を連載していきます。

Q.1

基準外繰出金とは？

A.1

市から市民病院への繰出は、国が定めた基準によって行っています。これを基準内繰出金といい、令和 6 年度決算では約 4 億円となっています。また、その基準に当てはまらない支援のことを基準外繰出金といい、令和 6 年度決算では赤字に対する支援が約 7 億円となっています。合わせて約11億円を繰出しています。

Q.2

経営形態とは？

A.2

現在の市民病院は公設公営（市が病院を設置し、市が病院を運営管理）です。その他に地方独立行政法人や指定管理者制度などがありますが、いずれの場合も市民病院であることに変わりはありません。

Q.3

経営形態は今後どのようにして
決定するのですか？

A.3

将来の収支予測と経営形態は、9 月に中間報告を行い、10月には市民説明会を行う予定です。その後、12月に最終報告を行い、決定します。

Q.4

病院が古くなっていますが
今後どうなりますか？

A.4

建物には「移転建替え」を行う予定です。

Q.5

深刻な医師不足
(特に内科医師不足)の状況で、
何か方策はしていますか？

A.5

現在、市民病院では「総合診療」部門を開発しています。内科・外科・脳神経外科が一体となって、診療科間の垣根を超えた診療を実施しており、各診療科が専門性を生かした診療を行っています。

Q.6

市民病院として、新たに
経営改善や市民サービスの向上で
取り組んでいることはありますか？

A.6

令和 7 年度から、以下の 4 項目を新たに実施しています。

- ◆特定健診の予約枠拡大
- ◆月 1 回、日曜日検診の予約枠・メニュー拡充
- ◆受診結果についての不明点にお答えする「相談窓口」の開設
- ◆「半日ドック」の開設(1 日ドックも継続実施)

※ 検査は午前で終了し、午後から時間を有効に使えます。

連載 第 1 回

高砂市民病院の

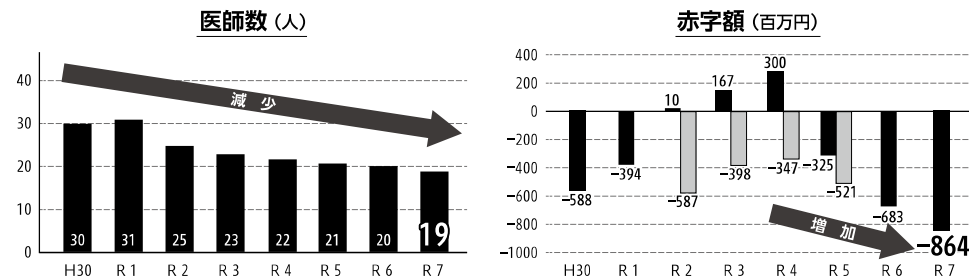
市民病院将来構想推進室 ☎079-441-7110

今

高砂市民病院は、昭和40年の開設以来、高砂市域の中核病院として急性期、回復期、終末期医療を提供していますが、医師数の減少などにより経営は非常に厳しい状況となっています。また、平成 2 年に建てられた現在の病院施設は、老朽化による課題も抱えています。

医師数と赤字額の推移

※ 令和 2 ～ 5 年度は国からの空床確保補助金を除いた場合を併記しています。



医師数は徐々に減少しています。また、「新型コロナウイルス感染症に関する国からの空床確保補助金」*を受け取っていた令和 2 ～ 4 年度を除けば多額の赤字が発生している状況です。

POINT

- ◆医師数の減少は、病院の経営に直接的に影響します。
- ◆赤字額の増加により、市の財政を圧迫する可能性があります。



基準外繰出金を
4 億円程度に維持
できた場合

現状のまま
公設公営として
運営を続ける

基準外繰出金を
4 億円程度に維持
できなかった場合

経営形態を見直し、
持続可能な経営基盤の
確立を目指す

そのため、将来の収
支予測を行い、新病院
開院後に赤字を 4 億
円程度に維持できな
かった場合は、経営形
態を見直します。